

メッセージアウトライン ローマ9：1～5「絶えざる痛み」

[1]「私はキリストにあつて真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています」

「キリストにあつて」とは神なるキリストの前でという意味。これから述べることは真実であつて神なるキリストの前に決してうそ偽りではないということの表明。さらにその強調として彼の良心も彼のうちに住む聖霊によってあかししている、証言していると言う。

[2-3]「私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです」

問題はパウロの同胞イスラエル人の不信仰であつた。パウロは彼らの不信仰を考える時、耐えられないほどの悲しみと痛みで襲われた。それは彼らに対する真実の愛のゆえであつた。散々彼を迫害し苦しめたイスラエル人に対する恩讐を超えた彼の愛をここに見る。パウロは同胞イスラエル人に対する愛のゆえに、「この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたい」と言う。これは彼らの救いのためなら、自分はキリストから引き離されて、神のさばきを受けて地獄へ行ってもよいということである。彼の同胞に対する思い、愛がいかに強く並々ならぬものであるかということがわかる。

[4-5]「彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン」

イスラエル人の先祖はアブラハムであるがその孫ヤコブは神からイスラエル(神と争う)という名前を与えられる。→創世記32章 この後、ヤコブの子孫はイスラエル人と呼ばれるようになり、彼らはアブラハム以来の神の選びの民、神と戦って勝ち、祝福をいただいた民であるとの思いがある。「子とされること」とは神の子どもとされるということ。「栄光」とは栄光に満ちた神が彼らの中に住まわれるということ。「契約」とは神が彼らと結ばれたさまざまな契約及び約束のこと。「律法」とはモーセをとおして与えられた神の律法でこれにより彼らは神のみこころを知り、なすべきことが何であるかを教えられた。「礼拝」とは律法にもとづくまことの神礼拝のこと。「約束」とは特にメシヤ、救い主に関するもろもろの約束のこと。これらすべてがイスラエル民族に与えられており、彼らの霊的特質を形成している。5節では彼らの歴史的特質が述べられており、キリストもその歴史的、人間的誕生という点ではイスラエル人として生まれられた。しかし、そのイスラエル人は救い主キリストを受け入れず、不信仰になっている。このような状態の同胞イスラエル人を思うたびにパウロは悲しみ、心が痛むのである。そしてこのような彼らのためなら、わが身の救いと引き換えにでも彼らを救ってほしいとパウロは願う。私たちもパウロの思いを思いとして、家族や友人、同胞の救いのために心を痛め、祈り、福音を伝え続けていかなければならない。